

天空の城 泊まりがけで



JR竹田駅前

宿相次ぎ開業 宿場町の風情生かし

これまで竹田周辺に宿泊施設はほとんどなく、約5キロ北のJR和田山駅周辺まで行かなければ、まとまった数の旅館やホテルがなかった。しかし竹田城ブーム

国史跡・竹田城跡(朝来市和田山町竹田)麓のJR竹田駅前で、ホテルやゲストハウスが増えていく。近年の「天空の城」ブームが起きるまで、宿泊施設は旅館1軒のみだったが、この5年あま

りで7軒が続々とオープンした。表と地図。町屋の1棟貸しから素泊まりのドミトリ(相部屋)まで、旅のスタイルに合った宿泊先を選べる環境が整ってきた。

(長谷部崇)

JR竹田駅前で近年オープンした宿泊施設

施設名	オープンした時期
① 竹田町屋 寺子屋 はな亭「宙」「天」	2012年9月
② 竹田城 城下町 ホテルEN	2013年11月
③ 竹田城下まち 朱々	2016年4月
④ 竹田城 城下町 ホテルEN「楠」	2016年4月
⑤ GUEST HOUSE TENKU	2017年4月
⑥ 竹田町屋 寺子屋 はな亭 別邸「千の雲」	2017年8月
⑦ Backpackers' Hostel「福苗ハウス」	2017年12月

落ち着いた内装で人気の「竹田城下町ホテルEN」朝来市和田山町竹田(パリューマネジメント社提供)

に乘る形で2012年、明治期の町屋を改装した「竹田町屋寺子屋はな亭」、続く13年には旧酒造場の「竹田城下町ホテルEN」が相次いでオープン。落ち着いた雰囲気の内装や、但馬牛など地場の食材を使った

料理で、人気を集めるようになった。「城跡の麓という立地や、建物の歴史性に魅力がある。宿泊施設として活用することで、竹田の価値ある建物を後世に残していきたい」。ENを運営するパリューマネジメント社(大阪)の担当者はそう話す。かつて宿場町だった竹田

には、本を半分ぐらい閉じたような形状の「切り妻屋根」、2階部分に通風や採光のため設けた「虫籠窓」、1階には格子などを備えた家屋が多く残る。「はな亭」と「EN」はそれぞれ、近くに1棟貸しの離れも手がけている。竹田に残る空き家を宿泊施設に活用する動きは、今後も続きそうだ。

一方で、市外の宿泊者もどう取り込んでいくかという課題もある。関西学院大学の学生や朝来市商工会が本年度、竹田城跡周辺で実施した観光客アンケート(中間発表)によると、宿泊旅行中の観光客の8割が、城崎温泉や姫路など朝来市外に泊まり、市内宿泊者はわずか1割にとどまった。竹田城以外の目玉が少ないことなどが要因とみられ、「地元滞在型観光」には、まだ遠い現状がうかがえる。

季節ごとに波がある観光客数も、この地域の宿泊業者にとって頭の痛い問題だ。特に城跡の閉山で客足が途絶える冬場は、増えた宿泊施設同士の「客の取り合い」を懸念する声もある。関係者は「降つて湧いたようなブームの状況が一段落する中、観光地・宿泊地として竹田をどう育てていくのか、まち全体のビジョンを考える時期に来ている」と指摘する。